

中国・四国

キャンパスNews

公立大

県立広島大

毛利氏が食した饗応食を
再現して地域のイベントで提供

県立広島大の人間文化学部健康科学科と修士課程人間文化学専攻の学生が10月20日に広島県北広島町の吉川元春館跡歴史公園で開催された「吉川戦国まつり2019」に参加した。戦国期の大名・毛利氏が食したと考えられている饗応食(きょうおうしょく)を再現した料理を提供した。

学生らは、饗応食の献立、器、食事様式などの検討を重ねるとともに、饗応食の観光分野や教育分野での活用をめざしている。3月には、饗応食の資料の読み解きから再現に至るまでの研究成果の発表を行った。

今回は、吉川戦国まつりの企画の一つとして毛利饗応食の試食会を実施。北広島町、安芸高田市、三原市の3市町の首長が、学生らが再現した料理の一部(大納など3品)を試食した。来場者に対しても30食分を提供。試食をした人からは貴重なコメントや感想の声が聞かれた。

同イベントでは、北広島町だけでなく安芸高田市や三原市による踊りの披露などもあり、学生らは3市町の歴史と文化を肌で感じる事ができたよう。今回の経験を通じて学んだことを、饗応食の今後の再現や活用を生かしていく予定だ。



毛利氏の饗応食を再現した料理の試食会を実施した学生

山陽小野田市立
山口東京理科大薬の服用法について学ぶ
体験学習を小学校で実施

9月27日、山陽小野田市立小野田小学校にて、「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う～体験学習～」を開催した。NPO法人医薬品適正使用推進機構との連携により実施しているもので、山陽小野田市立山口東京理科大では2月より行っている。薬学部の学生が子どもたちの補助に入って実験を行い、「くすり」を安全に安心して使うために大事なことを伝えた。

体験学習には小学5年生42名が参加。前半は、薬学科の和田光弘教授、武藤純平准教授がスライドを使い、薬をどのように飲んだらよく効き、副作用を防ぐことができるかなど10の課題についての「実験を始める前のお話」を行い、Q&A方式で小学生が回答した。子どもたちは、元よく挙手して問いかけに答えた。

その後、小学生は4、5名のグループに分かれ、くすりの飲み合わせなどの4種の実験を行った。理解を深められるよう、山陽小野田薬剤師会のメンバー1名と、ボランティアサークル「薬学研究会」を中心とする薬学部の1、2年生14名が補助に入った。教室内は色の変化など結果に対する子どもたちの驚きの声や歓声で盛り上がった。子どもたちには薬の知識が身につき、服用法について考えるきっかけになったようだ。



子どもたちと実験を楽しむ学生ら

私立大

広島国際大

学生の新薬開発が
癌治療の新たな可能性を示す

広島国際大保健医療学部4年の和田恵理子さんが、日本臨床検査自動化学会(JSCLA)と日本臨床検査機器・試薬・システム振興協会(JACLaS)が学生の研究を表彰する「JACLaS Award 2019」で優秀演題賞(学部生部門)を受賞した。和田さんの演題は、「遺伝子編集技術CRISPR-Cas9を用いた薬剤耐性乳癌株の作成とその評価」。CRISPR-Cas9とは、遺伝子のうち任意の領域を切断したり挿入したりする遺伝子編集技術だ。和田さんは今回、乳癌に着目。「社会で活躍する女性を支援したいという思いで、女性の罹患率が高い乳癌の治療につながる研究に取り組んだ」と話す。

和田さんは、乳癌細胞から癌抑制遺伝子・PTENをCRISPR-Cas9技術で取り除いて培養。PTENを欠損した状況で癌を抑制する物質を投与した。脳腫瘍などを抑える働きをもつ軸索誘導因子を投与すると、癌細胞の増殖シグナルが抑制される事が確認できた。軸索誘導因子を利用した新薬開発が、癌治療の新たな選択肢になりうることを示す結果となった。和田さんは、「今後、臨床検査技師が遺伝子検査に携わる機会は増えると思う。今回の経験を生かしていきたい」と将来の抱負を語った。



作成した乳癌株に投与する物質を抽出する和田さん